

○ 6月11日(火)

府立学校スクールミーティング(工業高校)



○ 畑 委員長

福知山市において凡そ半世紀の歴史を刻む府立工業高校を訪問しました。機械・生産・電気・電子・情報の五つの分野にそれぞれ明確な専門性を持って取り組む高校生の姿に出会って、とても頼もしく思いました。机に向かって教科書と向き合う普通科の授業とは一味違い、油にまみれながら旋盤加工を学ぶ視線は真剣でした。数人で設定した製作テーマはユニークなものが目白押しです。中でも私が最も興味深く感じたのは「ハムスターの動作管理とデータ送信」という、二人の女子学生の取り組みでした。機器の製作やプログラムの開発を進める傍ら、ハムスターの世話も必要です。ほほえましい現場でした。

この学校が長年にわたり取り組むインターンシップに関して、受け入れ企業のご担当者と懇談の機会を得ました。2年生180名を5日間にわたって受け入れてくださるおよそ90にも及ぶ事業体のご支援に感謝します。学校の中では学ぶことのできない真の社会性に出会って、声の大きさや挨拶の励行などが身に付き、就業することの厳しさを考えるきっかけを得るようです。地域社会の多くの方々のお世話をいただいて、卒業後の就職にも続く道りを歩むことのできる環境を、これからも応援していきたいと願っています。



○ 冷泉 委員

初めて工業科のある高校を訪問しました。多くの課題から自分の専攻を決めて熱心に取り組んでいる様子に感動しました。

意見交換の場で、地元の会社の方々から、卒業生がたくさん働いているという報告を受け、嬉しい限りです。

また、インターンシップとしても多くの生徒を受け入れていただいている地元の企業に感謝申し上げます。

作業室がとても暑そうで、生徒は暑い中での作業に励んでいました。また作業室での冬の寒さが心配です。

○ 6月11日(火)

府立学校スクールミーティング(工業高校)



○ 安藤 委員

工業高校生の「地元企業へのインターンシップ」の取り組みを拝見いたしました。

地元企業との懇談では、「社内の雰囲気や活性化にもなり新鮮だ」と、「地元の企業を身近に感じて欲しい」、「会社や仕事への理解を深めてほしい」と、地元企業の積極的な姿勢が感じられた取組内容をお聞きました。現場の機械や技術に触れながら、会社の仕組みを学んだり社会人としてのルールや決まりを教わったり、生徒に近い年代の社員を指導役に置くなど生徒の馴染みやすい環境にも配慮があり、企業側の確かな受け入れ体制があつてこそと、大変頼もしく思い、生徒自身もとても良い経験ができていると感じました。

また、職場体験後に行われる「インターンシップフォーラム」では、この体験で感じたことや考えたことなどを後続学年に発表したり作文に書いたりし、生徒の自信と働く意欲、自己の課題発見や探究につなげ、職業意識を高める良い機会として定着しているように感じました。

今後もこの取り組みが充実するよう、地元企業とも連携を深めていって欲しいと願っています。

インターンシップを終えた3年生の課題研究を見ながら感じたことですが、「難しさに直面したときの驚きや発見」「考えたものを形にする喜び」など、自ら考え知恵を絞るというものづくりの楽しさを感じ、課題研究に取り組んでいる姿は本当に楽しそうで輝いて見えました。

1年を通して取り組む研究の題材選びも、工業高校ならではの知恵や技術の詰まった個性が光る面白いものばかりでした。教員の見守りや助言も手助けしながら、一人一人の可能性を伸ばしていって欲しいですし、今後も基本技術の習得は勿論、インターンシップや資格取得など様々な経験を重ね、進路を切り開く力をつけていって欲しいと願っています。